

ワシントンで働く女性の会（J-WIP）第5回会議報告

企画担当理事
安井真紀

去る9月7日、ワシントンDCで働く女性の会（**Japanese Women in the Professions in Washington D.C.（J-WIP）**）の第5回会議をワシントン市内で開催しました。

基調講演は、大田弘子政策研究大学院大学教授より「アベノミクスと日本企業」をテーマに、アベノミクスの3本の矢（金融緩和、財政政策、成長戦略）、日本企業におけるコーポレートガバナンスの進展、成長戦略として行うべき改革について、お話いただきました。複数の企業の社外取締役のご経験も踏まえ、ダイバーシティや労働市場の流動性の重要性を強調された上で、働き方の問題についてご自身の見解を示されました。

次に、山脇岳志朝日新聞アメリカ総局長を交えて、パネルディスカッションを行いました。以前からお知り合いであったお二人ならではの、ざっくばらんかつ楽しい雰囲気の中、大田氏のパーソナルストーリーや今後の日本の課題について、明快なお話振りが印象に残りました。

講演会参加者からは、教育の改善から日本の女性活躍の現状、柔軟な働き方など幅広いトピックについて質問が出ました。予定時間を超える活発な議論となり、充実した意見交換の場となりました。

その後、大田氏や山脇氏を含めてメンバー間の交流を目的としたレセプションを開催しました。当日は**J-WIP**のメンバーのほか、**Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship (JSIE)**や商工会のメンバー、学生も含め、男女**65**名の方にご出席頂きました。

